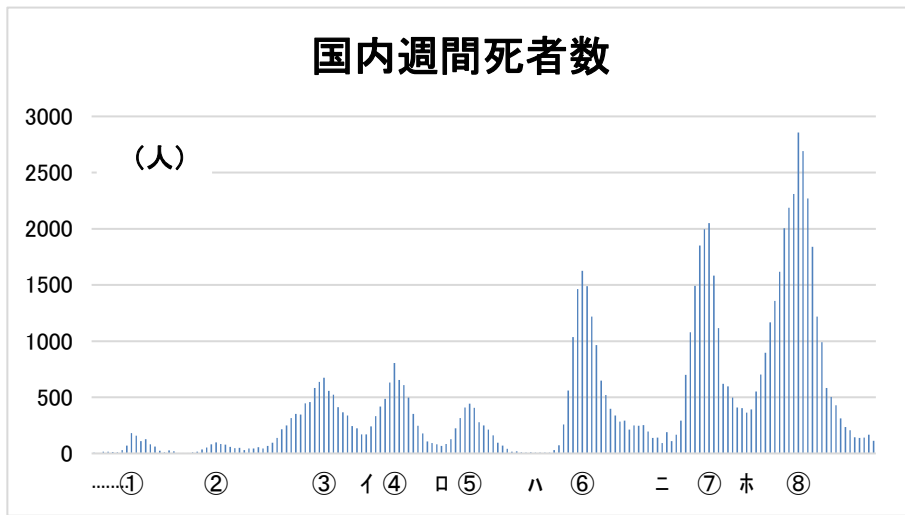
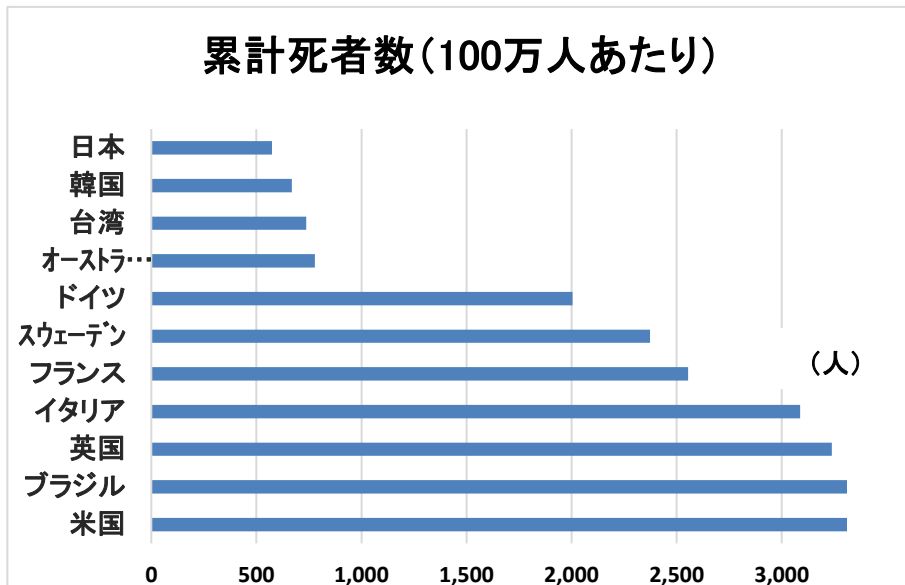


グラフ 2

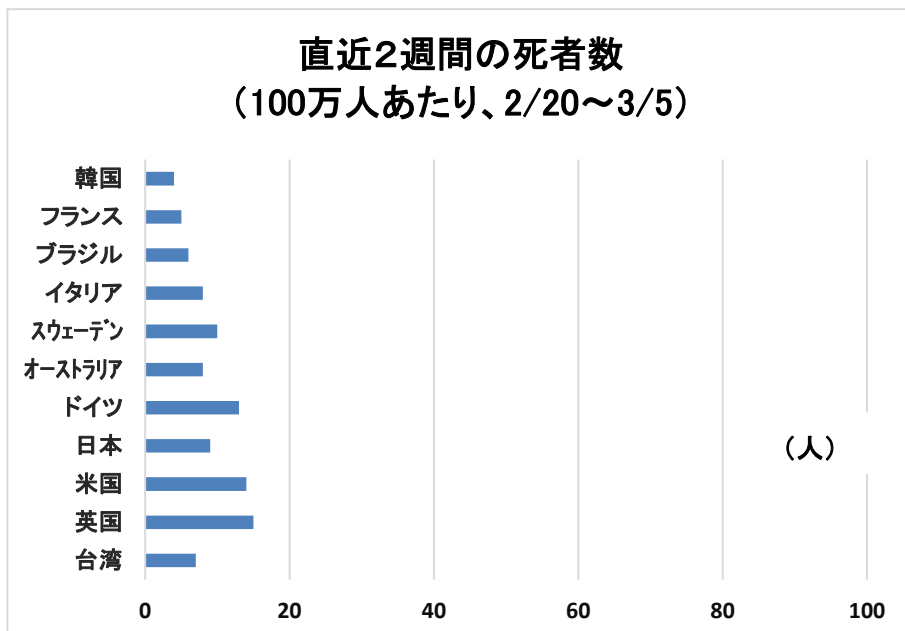


- ① 2020 0426、② 2020 0830、③ 2021 0207、④ 2021 0523
 ⑤ 2021 0912、⑥ 2022 0207、⑦ 2022 0904、⑧ 2023 0115
 (国内累計死者数 : 74,654 人 厚労省 HP 2023 年 5 月 7 日)

グラフ 1 累計死者数 (～2023 年 3 月 5 日、100 万人あたり)



グラフ 3 最近2週間の死者数 (2/20～3/5、100 万人あたり)



新型コロナウイルス感染症 COVID-19 ー途中経過と願い

皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）蔓延のためストレスが溜まる生活を余儀なくされていることと存じます。

まだコロナ禍の渦中ですが、少し振り返ってみたいと思います。

2020年9月27日の時点で、100万人あたりの新型コロナ死亡者数は、米国 622人、英国 619人、スウェーデン 588人、イタリア 587人、フランス 488人、ドイツ 113人、オーストラリア 35人、日本 12人、韓国 8人、中国本土 3人、台湾 0.3人、となっています（グラフ1）。現時点で日本は、外国メディアが「日本の奇跡 miracle」あるいは「日本の謎 mystery」と報道したように欧米と比べれば 極めて良い状況 ですが、韓国や中国と比べれば 多少見劣りがする といったところでしょうか。ですが、私権制限・罰金やプライバシー侵害をとまなう強制的な施策がほとんど講じられなかったこと、そして重症化しやすい高齢者が非常に多いことを考慮すると、現時点ではやはりかなり良い方でしょう。国内死亡者数の累計が 1,500人台ですから、少なくとも某国立大学教授が警告したような「(事と次第によれば) 42万人死亡する」という事態にはなっていません。

その要因として、日本では医療へのアクセスが世界最高水準で医療レベルが高いこと及び国民の生活習慣が清潔で衛生意識が高かったこと等が挙げられますがーそれとも免疫力？ー老人ホームなど高齢者介護施設での感染者数ひいては死亡者数が少なく抑えられたことも大きかったようです。「正直、日本に（山中教授が言う）ファクターXというものがあるならば、介護従事者の頑張りに尽きると思っている」と表現した某大学病院勤務の医師もいます。欧州では新型コロナ死亡者の約半数、米国でも約 4割が介護施設の入居者だったようですから、確かにそのようなのでしょう。

東京弘済園でも例年のインフルエンザ対策（マスク、手指衛生、発熱者の隔離など）を徹底し、面会制限、換気、エキストラの消毒などを行った結果、今のところ 感染者は出ておりません。全スタッフによる努力の賜物と思っております。特に現場の苦勞とストレスは大変なものでしょう。面会制限などからくる利用者のご家族の心勞も相当なものと思います。ご理解とご支援に感謝しております。

PCR 検査陽性者数の解釈には注意が必要ですので、ここでは2020年2月24日～9月27日の国内週間死者数の推移をグラフ2に示します。最近は少し減少傾向ですが、まだまだ、特に高齢者介護施設では気を緩められません。これまでの対策に加えて、医療行政的に医療・介護・保育従事者が必要時速やかに PCR 検査や抗原検査を受けられる体制が必要でしょう。

この秋冬、また準鎖国状態緩和後が勝負所と思いますが、来年

お花見の頃までには感染予防対策を続けつつ普通の日常生活—例えば、新幹線に乗って旅行する；お店で会食する；映画館に行く；入院患者や施設入居者と面会する—が普通にできるような雰囲気になっていることを心から願っています。新幹線については、まあ注意（マスク着用、会話自粛、熱や咳が出ている人は乗らない）さえすれば今でも全く問題ないような気がします…。換気が十分なら映画館だって。

これからもスタッフ一同感染防止に努めてまいる所存です。新型コロナの一日も早い鎮静化と皆様のご健康をお祈り申し上げます。

（法人広報誌 秋号の一部を改変したのですが、
グラフだけは適宜更新しています）